

香取地区教育委員会連絡協議会長賞

日本の明るい未来のために

神崎町立神崎中学校三年

北 崎 花 奈

今まで私は当たり前のように小中学校に入学して、教科書を使い勉強したり、おいしい給食を食べている。だが、このように過ごしているのは、たくさんの人が一生懸命に働いて、税金を払ってくれているからだ。いつもお世話になってる校舎やそこで使用

されている電気や水道、空調設備。今、私がこの作文の為に利用している図書館もそうだ。私達が義務教育を九年受け、毎日学校へ行き学べる事は、とても幸せなのだ。九年間使用した教科書の裏には、定価零円と書かれており、これからの日本を担う私達のために無償で提供すると書かれている。また、税金について調べている中で、中学生一人あたりに一年間で使用される税金は、九十七万九千円だと分かった。たった一人に、こんなにも税金が使われているのに驚いた。日本中の全ての子供達に提供されているのだから、相当な金額であり、できるだけ多くお金を学ぶことが今の私達にできることだと思う。

他にも、予防接種が無償であったり、警察

や消防、道路や水の整備まで、私達の生活は税金で支えられている。これらの事だけを見ても、税金なしには私達の暮らしは成り立たない。まさに税金は、「縁の下の力持ち」と言ってもいいだろう。

もしも、税金がなくなった世界は、どうなるだろうか。困った時に助けてもらう警察は有料化、火災が起きた時に消防の方に火を消してもらおうのにもお金がかかる。急病人がいて救急車を呼ぶのにも有料化、公園を管理する人がいなくなり、修理や整備ができなくなり、荒れ果ててしまうだろう。つまり、税金がなくなってしまうと、身の回りの様々な公共サービスが無くなってしまい、個人個人がサービスを受ける際に負担することになってしまう。きっと、不自由な生活になるだろう。

私は税に対しての理解が薄かったため、買い物の際に支払う消費税が、厄介な物だと思っていた。税のかたちには色々あるが、私が生活するうえで大切な物である。また、税を払うことは、決して損をすることでは

はない。納税することによって、困っている人や町、日本のために貢献できるのだ。例えば、子供医療費の助成があることで、私が通院した時にとっても助かると母が言っていた記憶がある。確かに、税を払う分が少なければ、日々の負担は軽くなり、楽になるかもしれない。しかし、今の日本のように安心して豊かに暮らせるだろうか。そして、税が自分が困った時の保険になるかもしれないのだから。

これからは、もっと税の知識を深め、私達に期待してくれている国のために、多くの税金の力に恩返ししたい。だから、大人になったら、必ず納税をして、支える側になりたい。私達の生活を支えるサービスにお金をみんなを出し合うのが税金。個々の税が集まり、のちに大きな力となって戻ってくる。私達の安全で豊かな生活のために。